

実践記録（小1・生活科）

1 ねらい

通学路にある交通安全施設に気付き、グループで学区地図を作る中で、友達の気付きを知り、自分の新たな気付きとして取り入れることができるようにする。

2 手立て

- ・ **分類した気付きを基に、考えをもつ活動**
学区探検や教師が用意した写真や動画の資料から、学校の周りにおける交通安全施設について調べる学習を行う。児童が気付いた施設を白地図にまとめ、どこに、どんな施設があるか考えることができるようにする。
- ・ **友達との対話から、考えを広げる活動**
作成した交通安全施設地図を使い、グループの友達と互いの気付きや考えを伝え合うことにより、自分の考えを広げることができるようにする。



【写真や動画を見ながら、白地図にシールを貼る様

3 実践の様子

学区の周りの様子を、ICT機器を活用して、動画の資料を一時停止したり繰り返し再生したりして確認した。「薬屋があるよ」「信号がある」と、映像を見て、いろいろな気付きが出た。いろいろな気付きを分類するために、交通安全施設という観点を与えた。

次に、グループで1枚の白地図を用意し、学校の周りの様子を映像を見て、見付けた場所に交通安全施設シールを貼らせた。「学校の正門だ」「横断歩道があるね」「足跡のとまれもあるね」と、映像を基に施設を見付け、シールをうれしそうに貼る児童の姿があった。どの児童も白地図と映像を見比べながら、「横断歩道のシール多い。なんでだろう」「横断歩道の前に、とまれがあるね」と、交通安全施設に観点を当て、分類した気付きを基に、考えをもつことができた。

自分たちが作った交通安全施設地図を使って、グループで気付いたことを伝え合わせた。「ここいっぱいシールが貼ってあるよ」「信号のところだね」と、自分の気付きを友達に伝える姿があった。しかし、何を伝えてよいのか分からず困っていたグループもあったので、学校の近くにある大きな交差点のところに注目させて、気付いたことを伝え合わせた。「信号が4つある」「信号の下に、横断歩道がある」「足跡のとまれもあるよ」と、白地図にシールを貼ることで、映像で見るより視覚的に捉えやすくなり、気付きを伝え合う姿を見ることができた。「信号があるのは、車がたくさん通るからだ」「危ないから、交通安全施設がいっぱいあるんだ」と、友達と対話することで、考えを広げることができた。

4 成果と課題

- 観点を与え、学校の周りの様子の気付きを分類させることで、児童は何を見付ければよいのかはっきりと分かって活動することができた。
- 白地図に交通安全施設シールを貼ることで、児童の気付きをよりたくさん出すことができ、考えをもつことができた。
- 自分たちが作成した白地図を見ながら、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、自分の考えを広げることができた。
- 自分の考えを広げるために、仲間と対話する場面が、児童にとって何を話せばよいのか分かりにくく、もっと分かりやすくする手立てが必要であった。